

デマンド交通を利用した「介護予防事業」の実証実験について

令和3年度に実施した介護予防事業「外出モチベーション向上による高齢者の健康長寿延伸の仕組みづくり」の実証実験について、デマンド交通を利用した事業であることから、事業概要と今後の予定について、福祉部高齢者支援課から報告いたします。

◆事業目的

家にとじこもりがちな高齢者や虚弱（フレイル）になりはじめている高齢者をいかに外に出てもらおうか。生活の中で（買物ついでに・病院ついでに）自然にリハビリを楽しく行うことで、フレイルを予防することは可能か。また、フレイル予防の効果によって、高齢者の幸福度と筋力アップ、そして社会保障低減は可能かということを目指すことが目的。

◆事業概要

入間市および埼玉医科大学、入間市宮寺の小林病院、株式会社アイシンなど、産学官の計11者が連携し、株式会社アイシンが運営するデマンド交通「チョイソコ」を活用して、高齢者の外出機会を創出させ、高齢者の外出モチベーションを高めることで、健康増進を図る実証実験を行いました。

実証実験の概要は、令和3年11月から令和4年3月までの期間に、宮寺・二本木地区にお住いの、要介護認定が要支援1または2で自立歩行の可能な方など57名を対象に、買い物しながらリハビリできる仕組みや歩数をポイント化し、いちご狩りのイベントに参加できるなど、楽しく外出する機会を創出し、参加した対象者の健康増進効果を検証いたしました。

医学的な効果検証は、現在、埼玉医科大学等が分析中ですが、「積極的参加者」の20名中16名は、外出による「健康増進効果が見られた」という中間報告が埼玉医科大学からあったところです。

◆今後の予定

- (1) 現在、経産省の「地域新^{マース}MaaS創出推進事業」に補助金を申請しており、採択された場合、今年度も引き続き実証実験を実施する予定です。
- (2) 「外出モチベーション向上による高齢者の健康長寿延伸の仕組みづくり」の事業は、国が選定した「入間市 SDGs 未来都市※1」や県の「埼玉版スーパー・シティプロジェクト※2」にも位置づけられており、今後、実証実験の成果を踏まえ、対象地域を含め、実装に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。

※1 「入間市 SDGs 未来都市」

SDGs を推進するため、他自治体のモデルとなるような先進的な取組を進める都市・地域が選定されるもの。入間市は、2030 年の SDGs 達成に向けて、「Well-being※」をキーワードに地域資源を生かした取組を進める提案を行い、2022 年度 SDGs 未来都市に選定された。

※「Well-being」・・・住んでいるだけで、気持ちが豊かになり、また、健康になって良い状態で幸福感を感じられるような地域社会を目指す。

※2 「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」

県が市町村や民間企業とともに超少子高齢社会の課題に対応し、「日本一暮らしやすい埼玉県」の実現を目指すもの。入間市も県とともに、コンパクト・スマート・レジリエントの3要素から取り組み、誰一人取り残さないまちづくりを進める。

- ・コンパクト……必要な機能が集積しゆとりある”魅力的な拠点”を構築
- ・スマート……新たな技術の活用などによる”先進的な共助”を実現
- ・レジリエント…誰もが安心して暮らし続けられる”持続可能な地域”を形成